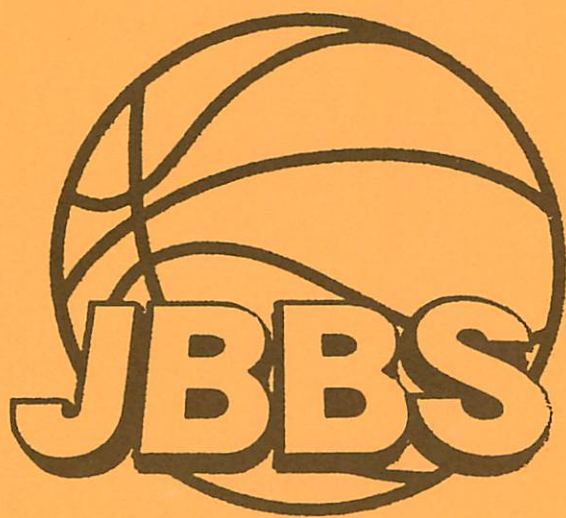


バスケットボールプラザ

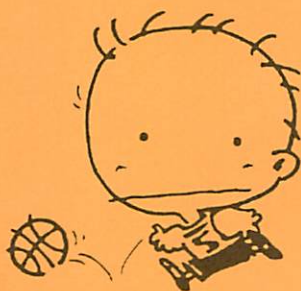
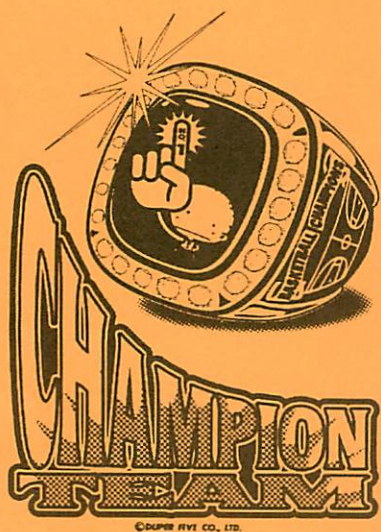
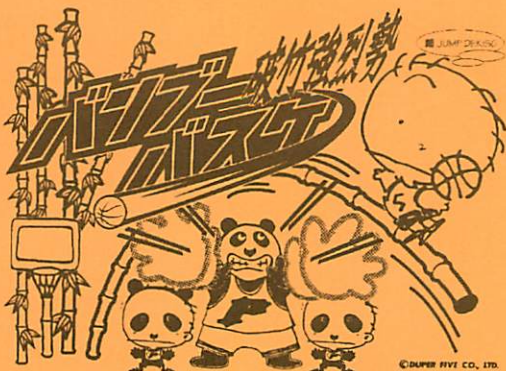
Basketball Plaza

No:43



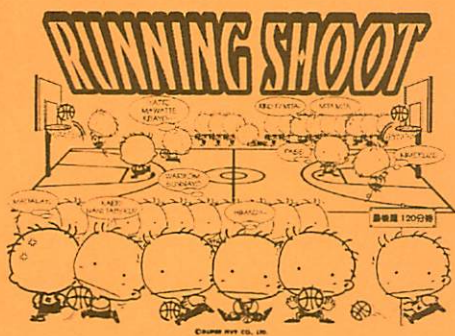
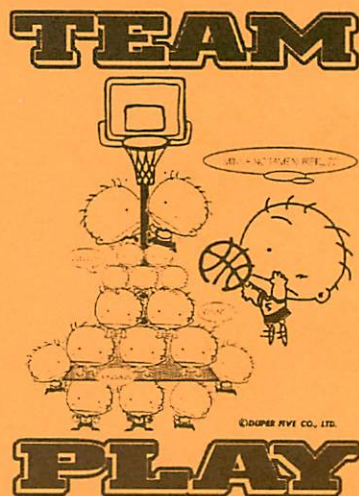
2009年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

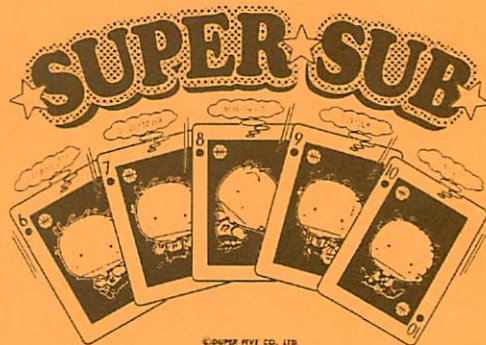
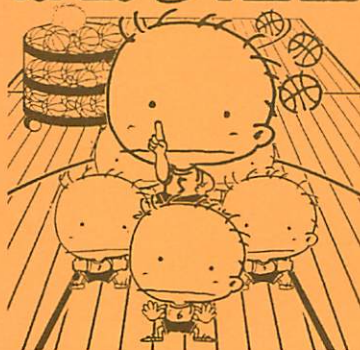


DUPER.

表現の自由人。



for the TEAM



DUPER.®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-35
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: info@duper.co.jp

大 目



手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかさに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。
ウエーブホープネオ
希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

目 次

- 日本女子代表世界選手権出場切符獲得 3
- 男子日本代表アジア選手権惨敗 8
- 秋季講演会開催 1 1
 これからの日本のバスケット強化について 諸山文彦 氏
- 秋季交流会の様相 1 5
- 公立でもインターハイ出場常連校 1 6
 神奈川県立金沢総合高校女子バスケットボール部
- 今年もスペシャルオリンピックスを支援 2 1
- スペシャルオリンピックス日本・東京 2 2
 創立15周年記念バスケットボール競技大会に協力して 上谷富彦 氏
- 日本バスケットボール協会機関紙の沿革 2 3
- シニアバスケットボール全国大会 2 6
- 会員だより
 弱いからこそ強くなれる 島田 豊 2 7
- J B L開幕に際して 3 0
- J B L試合日程 3 1
- W J B L試合日程 3 6
- b j リーグ試合日程 3 9
- 訃報・追悼文 4 5
- 平成22年度 日本協会 競技日程 4 7
- プラザ こぼればなし 4 9

女子日本代表世界選手権出場切符獲得

[編集部]

9月17日からインドのチェンナイで開催された、第23回FIBAアジア女子選手権大会において中川ヘッドコーチ率いる女子日本代表チームが3位となり、念願の世界選手権大会に出場することとなった。

この大会は当初6月にチャイニーズ・タイペイで開催予定だったが、同国が急に開催を返上したため、今回インド・チェンナイでの開催となったが、ご承知の通り開催地の環境は決して良いとは言えず、選手団は大変な努力の末に3位を勝ち取った。

この結果女子日本代表は、2010年9月から10月にかけてチェコで開催される第16回女子世界選手権大会に8年ぶりに出場することになり、日本バスケット界にとって久しぶりの朗報となった。

女子日本代表チーム

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
チームマネージャー	佐室 有志	日本協会会長代行
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	後藤 敏博	トヨタ自動車アンテロープス
アシスタントコーチ	加藤 雅規	アイシン・エイ・ダブリュ
総括	吉田 良子	女子日本リーグ機構

選 手

No.	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
4	小磯 典子	C	183	78	35	アイシン・エイ・ダブリュ
5	矢代 直美	C	182	70	31	日本航空
6	小畑 亜章子	PG	165	56	27	デンソー
7	三谷 藍	PF	182	68	31	富士通
8	渡辺 由夏	PF	180	70	28	シャンソン化粧品
9	櫻田 佳恵	SG	170	63	25	トヨタ自動車
10	高橋 礼華	SF	177	65	21	日本航空
11	山田 久美子	C	192	116	30	JOMO
12	吉田 亜沙美	PG	165	64	21	JOMO
13	大神 雄子	PG	170	63	26	JOMO
14	高田 真希	PF	183	74	20	デンソー
15	内海 亮子	SG	175	68	23	JOMO
	平均		177	71	26.5	

試合結果

予選ラウンド

予選ラウンドはレベル I に属する 6 チーム総当たりリーグ戦で上位 4 チームが決勝ラウンドへ進出する。

9月17日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ○	18	19	19	17	73
チャイニーズ・タイpei ●	17	20	15	13	65

9月18日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ●	13	19	14	12	58
中国 ○	14	19	23	19	75

9月19日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ○	23	20	26	25	94
タイ ●	9	14	18	19	60

9月21日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ●	23	19	8	18	68
韓国 ○	14	21	26	21	82

9月22日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ○	21	34	29	24	108
インド ●	20	11	13	14	58

以上の結果、日本は予選ラウンド 3 位となって決勝ラウンドへ進出した。

決勝ラウンド

決勝ラウンドは、中国、韓国、日本、チャイニーズ・タイpeiの予選順位により、準決勝は中国対チャイニーズ・タイpei、韓国対日本の対戦で行われた。

9月23日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ●	5	15	20	17	57
韓国 ○	30	18	30	23	101

日本は決勝進出をかけて前回大会優勝の韓国と対戦、日本は#7 三谷が試合開始直前に発熱するアクシデントに見舞われ、4戦連続で10名による戦いとなった。試合開始から韓国に圧倒された日本は精彩を欠いた。韓国は日本のディフェンスを多彩なスクリーンやドライブで振り切り、ノーマークから確実にシュートを決めて大差で勝利した。

第1ピリオド

日本は立ち上がりから韓国の多彩なフォーメーションオフENSEを止めることができず、立て続けに相手に得点を許す。日本はオフENSEでも精度を欠き、中盤まで#9 櫻田のフリースローと#4 小磯のフックシュートの3得点しか決められない。韓国がその後も確実に加点するのに対して、日本はシュートを打てども決められず、韓国に14連続得点されてしまう。結局日本はこのピリオドを5得点に抑えられ、韓国の大量リードで終わる。

第2ピリオド

日本は#11 山田がゴール下で頑張るがバスケットカウントを得るがフリースローが入らない。韓国はその後交替した選手が確実にシュートを決め、点差はさらに広がる。終盤この試合で唯一決まった#12 吉田の3Pシュート、#4 小磯のフックシュートで連続得点するが差は縮まらず、前半を20-48で終わる。

第3ピリオド

悪い流れを変えたい日本はディフェンスの動きを高めて流れに乗ろうとし、オフENSEでも積極的にシュートを打って上昇の兆しをつかむが、韓国の正確なプレーは健在で、得点が止まることはない。日本は激しいディフェンスで頑張るが韓国にパスでふられ、ノーマークシュートを確実に決められる。終盤#11 山田や#14 高田がインサイドで頑張るが点差は縮まらず、40-78とさらに点差が開いた。

第4ピリオド

韓国オフENSEの正確さは変わらず次々と3Pを決められる。日本は#10 高橋が積極的に攻めて加点するが、韓国に連続得点を許し47-93の46点差になってしまう。終盤#5 矢代がフリースローやリバウンドシュートで連続7得点をあげて差を詰めるものの大勢は変わらず、日本は57-101と大敗を喫した。

三位決定戦

9月24日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ○	18	21	12	21	72
チャイニーズ・タイペイ ●	11	8	18	20	57

世界選手権大会の出場切符をかけた3位決定戦、日本は序盤から激しいディフェンスとリバウンドをしっかりと取る理想の形でリードを広げる。後半、一時、攻めのリズムを崩すが、#4 小磯、#7 三谷らの得点で逃げ切り、一度もリードを許すことなく快勝した。

第1ピリオド

やや硬い立ち上がりとなったが、日本は#4 小磯がオフENSEリバウンドから次々と得点し

リードする。チャイニーズ・タイペイもインサイドから得点して対抗するが、日本の激しいディフェンスの前にリズムに乗れない。日本は終盤#12 吉田、#7 三谷が連続3 Pシュートや速攻で得点し、18-11で終わる。

第2ピリオド

開始早々、#13 大神から#5 矢代へ絶妙なアシストが決まり盛り上がる。その後も激しいディフェンスからスティールを連発して速攻を決め、相手の得点を封じたまま10連続得点で28-11とリードする。しかし日本がディフェンスをゾーンに変えると、空いたスペースからミドルシュートを続けて決められ、今度はタイペイが8連続得点する。

しかし日本は終盤に再びスパーク、ドライブからインサイドへのパスが次々と決まって相手を突き放し、39-19で前半を終える。

第3ピリオド

日本はシュートの精度が落ち得点が止まる。対するタイペイはインサイドやミドルで得点し、一時は14点差まで差が詰まる。日本は我慢の時間帯となるが#4 小磯が踏ん張って得点差を保ち続ける。日本はそれ以上点差を詰めさせず51-31で最終ピリオドへ。

第4ピリオド

日本は序盤攻めのリズムを崩して苦しい時間帯を迎えるが、ディフェンスを頑張って凌ぐ。タイペイは何とか1桁まで点差を詰めようとするが、その後#7 三谷の連続得点でこれを阻止。終了間際に#13 大神のジャンプシュートと#7 三谷のダメ押し3 Pシュートで勝利を決定的にし、72-57で第3位の座を手中にした。

大会結果

決勝戦は中国と韓国の間で争われ会場は超満員になったが、結局中国が着実に得点を重ねて、91-71の20点差で韓国を下して優勝した。



個人表彰を受ける吉田選手

大会後に行われた表彰式で個人賞の部において、大変なことがあった。リバウンド王に輝いたのは、なんと身長165cmの日本チーム#12 吉田亜沙美選手だったのである。ポイントガードでありながら、大きい選手に対抗してボールへの執着心を持ち、毎試合相当数のリバウンドを取りに行った結果のタイトルは、まさしく称賛に値し、すばしこい日本バスケットボールの特技を象徴しているようだ。

現地チェンナイにて

日本チームはWJBL開幕(9/26)の日程もあって、大会終了後足早に会場を後にして空港へ向かった。23時のフライトを前にして夕食をとるために空港近くのホテルへ行ったと

ころ、そこには今大会で大変お世話になった現地日本人会の皆さんが手配してくれた夕食会場があった。

ホテルでは大勢の日本人会の方が家族総出で選手団を出迎え、拍手とエールと選手名が記された手作りののぼりで選手たちを慰労した。

選手全員が整列の上、中川ヘッドコーチから勝利の報告があり、皆川総領事の音頭による乾杯のあと祝勝会が始まった。おいしい食事と、日本人会の方々から労をねぎらう温かい言葉をいただいて選手団は感動。さらに空港へは、日本人会の方々が自家用車で日本チーム全員を送り届けるといった徹底ぶり。日本チームは、大会中ずっと応援していただき、さまざまな形で支えてくれた皆さんに感謝して別れを惜しんだ。

日本チームは、インド・チェンマイという不慣れな土地での大会に、至る所で混乱させられた。環境的に言えばどのチームも同じ条件で戦うのだが、日本選手は体調不良を連発したり、日本人のよろさを露呈したりと日本国内との格差が大きく影響したようだ。そんな中でも、日本チームの大きな支えになったのが現地日本人会の方々の支援だった。日の丸を掲げ選手の名を叫び、絶えない日本コールで選手に応援のメッセージを直接送るといったことが毎試合続いた。その応援が限りなく選手の力となったことは間違いない。

日本でも多くの人がテレビで応援したと思うが、久しぶりの世界選手権大会出場という快挙に対して、女子日本代表チームの活躍に感謝するとともにバスケットファンともども喜びたいものである。

中川ヘッドコーチのコメント



今回は次々と選手の体調が悪くなり、本当に苦しんだ中で最後はよく頑張ってくれました。この選手達は必ずやってくれると信じていましたが、最後にその意地が出たのではないのでしょうか。紆余曲折がありましたが、3位決定戦で勝つことができたことで、日本のバスケットの灯りが消えなかったことは本当によかったと思います。もし負けていたら日本のバスケットの将来はないという心境でした。選手達には試合前に「日本に良いお土産を持って帰ろう」と伝え、選手達はそれにしっかりと応えてくれました。本当によくやってくれました。

矢代直美主将



とにかく嬉しいです。勝って安心しました。ある程度予想はしていましたが、こんなにも次々とコンディションを崩すとは思っていませんでした。韓国との敗戦を受けて、このままじゃいけないと選手同士でミーティングをして士気を高め、良い勝利ができて本当に嬉しいです。

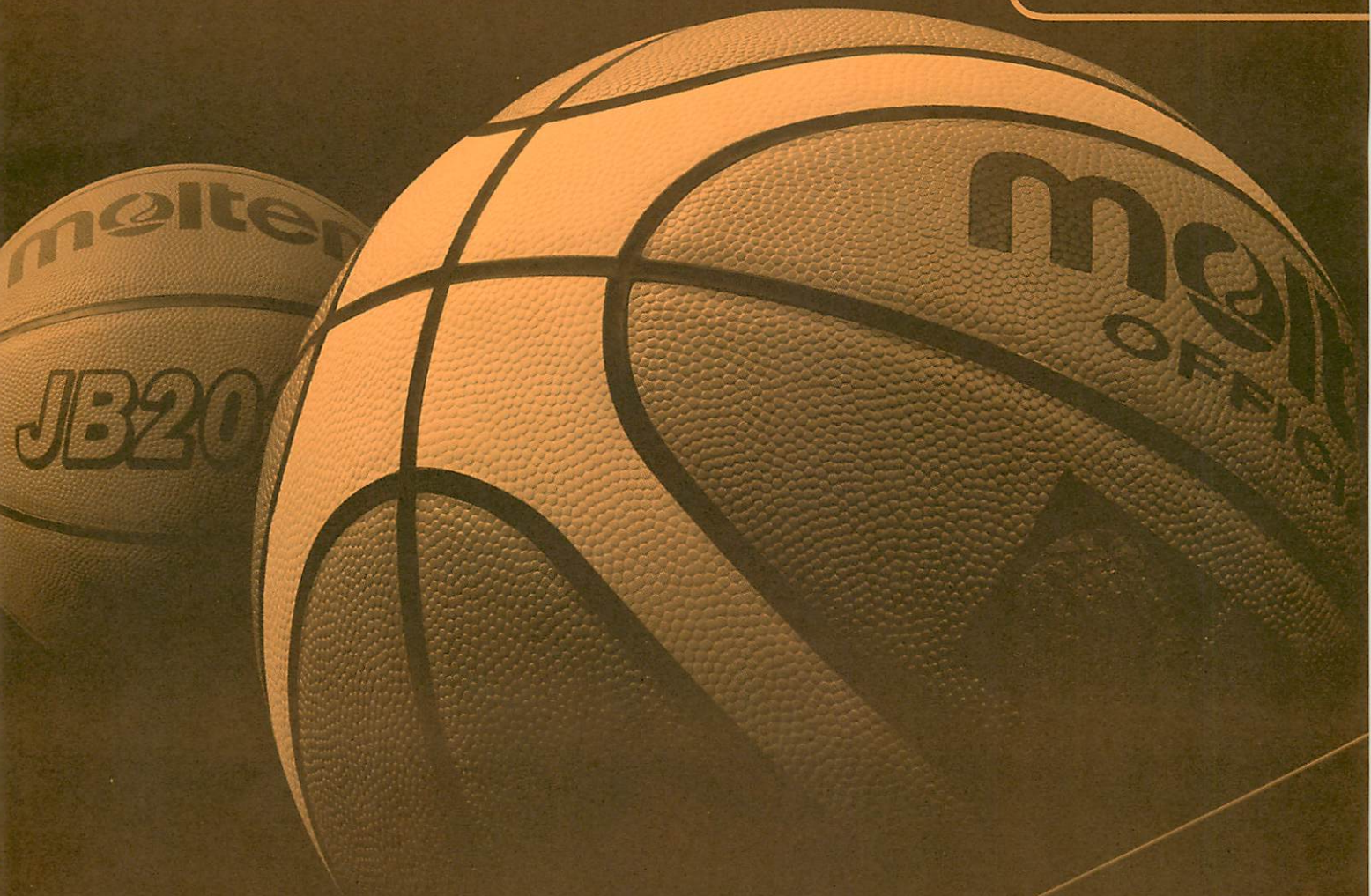
現地チェンマイの日本人会の方々にも本当に良く支えていただき、元気ももらいました。世界選手権への切符を取り、世界へ挑戦できる権利を得ましたので、日本のバスケットがどう戦えるのかチャレンジしたいです。

以上

プラザ こぼればなし

- ◇ 島田豊氏の会員だよりを拝見して会員の皆様はいかがお感じか。日本協会の今後の対応に注目したい。今回の男子アジア選手権大会をTV観戦して、日本代表チームの戦いぶりには失望させられた方も多かろう。本来格下のはずのフィリピンに予選ラウンドで敗れるなど、相手に容易にやられているように見受けられた。日本バスケットボール界としては今回を一つのバネにして、全国すべてのチームにおいて指導者を始めプレーヤーの皆さんが切磋琢磨して更に上を目指して努力し、日本全体のバスケットの進化を遂げることを期待したい。プラザ編集部では、皆さんから日本のバスケットボール界に対する、建設的なご意見の投稿をお待ちしたい。
- ◇ 本年度もJBL、WJBL、およびbjリーグが開幕されている。その戦績を見ると、厳しいディフェンスで低得点のゲームになることもあるが、概してオフェンスのまずさからか得点が60点台にとどまるチームが見受けられる。たまたま観戦したゲームもそうであった。そのようなチームはプレーヤーをノーマークにできず従ってシュートの成功率も低いので、サポーターは勿論のこと他の観客をも失望させることになる。是非、強力なディフェンスに対してもノーマークのプレーヤーを作るオフェンス力を身につけ、男子については各チームが1ゲーム80点以上の得点で競い合うように展開してほしいものである。それがバスケットボールゲームを面白くし、かつ観客動員を強力に後押しするものと信じる。各チームの奮起をお願いしたい。
- ◇ 全国シニアバスケットボール交歓大会についてはバスケットボールプラザ No. 33に紹介されている。これに基づき振興会では普及活動の一環として、このような銘を打った大会を本年4月12日に代々木第2体育館で開催し、その際の参加メンバーの声が前号バスケットボールプラザ No. 42で紹介されている。それによれば、代々木第2体育館での開催は特に全国大会に縁のない地方の皆さんに大きな意義があることが分かる。この大会を、その声に従って規模を更に拡大したいと思うが、一日のみの開催では参加可能なチーム数が限られる。地方の多数の皆さんに参加していただくためには、振興会の会員を含めた毎年新規のチームを優先することも考えられよう。また、体育館の確保のため期間・期日ともにウィークデーを選定せざるを得ない場合も出てくる。参加されているみなさんはどうであろうか、ご意見を頂戴したい。

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

どんな道も、
自分の道に変えられる。



Sound mind
sound body

 **asics**